

# 国際交流センター

## NEWSLETTER

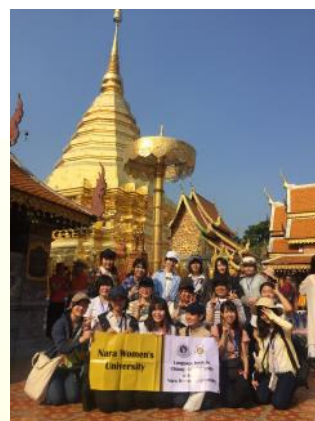
Mar. 2019 Vol. 54

### グローバル女性人材養成プログラム(タイ)参加者の感想

2月22日(金)～3月10日(日)の17日間、チェンマイ大学(本学協定大学) Language Instituteにてグローバル女性人材養成プログラムの研修が行われました。18名の学生が参加し、英語での授業やインターンシップ、異文化交流などを体験しました。参加した学生の感想を紹介します。

#### 参加した感想は？今後の目標は？

チェンマイ大学で受講したOral Presentationの授業では、ネイティブの先生から効果的なボディランゲージやアイコンタクト、文章の構成などを中心に英語プレゼンテーションについて学んだ。プレゼンテーションではただ口で話すだけでなく、それぞれに応じたEnthusiasm(熱意)や話し始めの「つかみ」はとても大切である。これらの技術について、プリントを用いたり、実践を交えながら学ぶことができた。Public Speakingの授業では、良い姿勢や文章の構成、英語の発音、話すときの声の調子や強弱のつけ方などを中心に、人前で話すことについてネイティブの先生から学んだ。英語には、日本語にはない音が存在する。“th”の2種類の音(voicedとvoiceless)や“l”と“r”の違い、その他にも、日本語と英語は話すときの口や舌の使い方、息使いなどがそもそも全く違うことを知ることができ、またそれを実践しながら授業を受けることができた。これらの授業で学んだことは、英語だけでなく日本語でも自分のプレゼンテーション能力を確実に向上させてくれたと感じている。



プログラムの中で、伝統的な寺院を訪れたり料理を食べたりする機会があり、日本の文化との違いを感じた。自分にとって初めての海外であったため、物価の違いや生活スタイル(食事の形式やトイレ)など様々なことに驚いた。バディーとの会話の中でタイと日本の文化の違いに気づくことも多かった。

### Inside This Issue



グローバル女性人材養成プログラム(タイ)  
参加者の感想



ダブルディグリー・プログラム 留学体験記



外国人留学生実地見学旅行(高野山)  
外国人留学生地域貢献プロジェクト(工場見学)



英語で授業をするための教員研修



インターンシップでは教授との対話の時間が非常に少なかったのにもかかわらず、タイと日本の違いや、奈良とチェンマイ付近の市の観光問題が似ていること、日本がASEAN、特に発展が他と比べ遅れているCLMVの国々にどのような対応をしているかなどを英語で対話した。英語は書くことよりも話すことが重要であるからどのような練習をしていけばよいのかをアドバイスしていただくなど、非常に濃い時間を過ごすことができた。

インターンシップ先では何故環境保全のために働いているのか、どんなことが大切かを聞くことができた。チェンマイ大学の学生とは、活動期間中のチェンマイの大気汚染指数について学んだ旨の話聞いた。チェンマイは地形上大気がこもりやすい上、バイク使用者が多いことから空もくすんだ日が多かった。環境については改善が必要だと見受けられた。今後は授業で得た英語力、プレゼン能力を活かし発表する機会があれば活用したいと思った。専攻の環境についての学びを深め自分にできることは何か考えることを今後の目標としたい。



今回の研修を通して自分がいかにまだまだ未熟で知らないことが多く限られた狭い世界で生きているかということを感じることができたためこの研修に参加して本当に良かったと思う。今後については自分の英語力をもっともっと伸ばすために英語の勉強を続け、可能であるならば色々な国に行きその文化を理解し世界のいろいろな人と関わりたいと思う。



## ルーヴェン大学(KU Leuven)からの留学生(留学体験記)

ダブルディグリープログラムの協定を締結しているルーヴェン大学 (KU Leuven) からの留学生が約1年の留学期間を終え、体験記を寄せてくれました。

### 奈良女子大学 留学体験記

大学院人間文化研究科博士前期課程  
人間行動科学専攻 1回生  
ナオミ・スコルティス

2018年4月から2019年2月にかけて、奈良女子大学でダブルディグリー・プログラムの枠内でほぼ一年間留学させていただきました。ダブルディグリー・プログラムとは、自国と外国の大学の二つの学位が授与される制度です。つまり、私の場合、ほぼ同じ期間に、提携しているベルギーのルーヴェン大学 (KU Leuven) と日本の奈良女子大学に在籍し、どちらの大学でも修了することができます。ベルギーにおいては、日本学を専攻していますが、日本においては、教育学・人間学コースを取っていました。それは、修士論文が羽仁もと子という日本最初の女性新聞記者であり自由学園という女学校の創立者でもある女性に着目しているからです。もちろん、ダブルディグリー・プログラムでは、研究で忙しいですが、様々な見学ののおかげで、日本文化と接する機会が多かったです。特に、「大阪の沖縄を歩く」という見学と「マダン」という在日韓国朝鮮人の祭りを楽しみました。この二つの見学を通して、日本のマイノリティと出会うことができ、本土に住んでいる沖縄出身者や在日韓国朝鮮人の文化・芸能や生活難をさらに理解することができました。日本は均質な国だと言われていますが、結局日本も多文化社会だということが分かりました。

一年間でひとつの研究をまとめるのは大変でしたが、指導教員の西村先生とサポーターの阪本先生のおかげで、1月に修士論文を提出でき、2月に口述試験も無事に終わりました。留学は、研究のためだけではなく、中でも自己啓発のために役立ちました。例えば、留学を通して、さらに自分に自信を持つようになり、社会の一員として自立できました。また、異文化を理解することを通して、母国もさらに知



高野山にて

るようになるということも分かりました。例えば留学をきっかけに、ベルギーよりも日本のほうがベルギーの高級チョコレート会社ゴディバ（GODIVA）が人気ということに気づきました。また留学中、日本人だけではなく、世界各地の人々と知り合うようになり、ベトナム、インドネシア、アメリカやイギリス出身の友達もできました。

楽しい思い出をたくさん作ることができ、帰国してから一週間になりますが、もう日本の留学時代を懐かしく思い出しています。

## 外国人留学生実地見学旅行・外国人留学生地域貢献プロジェクト

### 外国人留学生実地見学旅行(高野山) 11月11日(日)実施

外国人留学生実地見学旅行」が行われ、留学生22名が参加しました。当日は、雲ひとつない晴天に恵まれ、見事に色づいた紅葉も見ることができました。高野山到着後、約1.5キロの参道を現地ガイドの方と共に歩き、奥の院に参拝しました。奥の院では、弘法大師御廟の前で手を合わせ、真言密教の聖地としての荘厳な雰囲気に触れることができました。

奥の院参拝後、学生たちは精進料理を楽しんだり、紅葉の写真を撮ったりと自由に散策をし、その後、金剛峯寺に参拝しました。高野山の総本山である金剛峯寺では、由緒ある襖絵や、蟠龍庭（ばんりゅうてい）などをガイドさんの説明とともに見学しました。

#### 行程

7:50 近鉄奈良駅集合  
8:00 出発  
10:40 高野山到着  
10:50~12:20 高野山奥の院見学  
12:20~14:35 昼食・自由散策  
14:40~15:40 金剛峯寺参拝  
~18:30 近鉄奈良駅帰着



参加した学生の感想を一部ご紹介します。

美しい景色が一番好きなところです。仰いで見ると、秋の紅葉と青空がお互いに引き立て合っていました。そして線香の白い煙は遠山を覆い、日本ならではの「禅」を感じました。そして奥の院参道には、100年以上の杉木が聳えて、皇族から庶民に至るまであらゆる祈念碑が揃え、それぞれの伝説を聴きながら感動しました。

「金剛峯寺」の庭と建物が一番印象的できれいでした。日本の文化を感じる最高の景色でした。そして、屋根の上にある「消防器具」から先人の知恵を感じました。また、キッチンが日本では珍しく広いスペースだなと思ったら、2000人が食事をすると聞いて、またびっくりしました。その広いキッチンに大きな煙突があったのをお寺の方が丁寧に説明して頂きました。煙突が他にも二つあって、冬になったら寒いので、煙突の下に火を焚いて、皆一か所に集まって、暖を取っていたそうです。

金剛峯寺に入らせてもらって、とても綺麗な襖絵を観ることができました。最後に金剛峯寺にある蟠龍庭が観られて、龍の姿はなかなか見えなかった（笑）のですけれども、とても素敵で鎮静な雰囲気でした。



最初は、お墓が観光地になることにびっくりしましたが、ガイドさんの丁寧な説明のおかげでいろんな勉強ができました。韓国ドラマに出てくる韓国人の丸いお墓から、企業のために一生懸命働いていた従業員のために建てられたものや豊臣秀吉など歴史人物まで、お墓はこのような理由でこのような形で、このような人たちのためにも建てられているんだと感心しました。



## 外国人留学生地域貢献プロジェクト(工場見学)

日本の企業やその製造現場について知る機会を持つために、留学生を対象とした工場見学を実施しました。1月21日は、海外展開の目覚ましい2社の食品工場、3月15日は、多数の国に海外展開しているTOTO株式会社の最新設備の工場を見学しました。参加した学生の感想を紹介します。

### \*1月21日(月)実施 行先：キューピー神戸工場・明治なるほどファクトリー関西

キューピー神戸工場でも、明治なるほどファクトリー関西でも、同じ特徴があります。工場の面積が広くても、職員が少ないですが、商品の生産ラインが順調に進んでいるという特徴です。日本の企業のもう一ついいところは、見学が事業の一環として企画されるということです。一般人として普段毎日使っているものや食べているものはどのように作ってきたのかが現場で自分の目で確かめたり、自分の手で触ったりすることが出来るからこそ、人々に安心感を与えて、美味しさを味わわせる一方、企業にも信頼感や好感なども一層にアップしました。



### \*3月15日(金)実施 行先：TOTO滋賀工場



以前からずっと日本の製造業界に対する良いイメージを持っていましたが、今回は自分の目で日本の製造業のすごさを確かめることができました。工場の一つ一つの工程の精密性と機械化レベルの高さに感心しました。きちんと棚に置いているトイレを見て、不思議な気持ちになりました。一個一個(数え方は謎けど)のトイレが作業員たちの手を経て、日本中、世界中に運ばれるなんて、トイレでもみんなの思いがちゃんと込められているんだと思いました。TOTOさんの「目に見えないところまで綺麗にする」というフレーズが印象に残りました。

## 英語で授業をするための教員研修

「英語による授業の拡充」支援の一環として、国際教養大学(秋田県)よりPatrick Dougherty 教授をお招きし、英語で授業をするための指導法スキルアップ研修を本学教員を対象に実施しました。多くの先生方にご参加いただけるように同内容の研修を2月21日と22日の2日間で開催しました。

### センター及び国際課の活動

- 1/11 グローバル人材養成プログラム(NZ)第6回説明会
- 1/21 外国人留学生地域貢献プロジェクト 工場見学  
(キューピー神戸工場・明治なるほどファクトリー関西)
- 1/30 グローバル人材養成プログラム(タイ)第5回説明会
- 1/31 グローバル人材養成プログラム(NZ)勉強会
- 2/1 グローバル人材養成プログラム(NZ)第7回説明会
- 2/12 留学生Farewell Party
- 2/13 グローバル人材養成プログラム(NZ)最終説明会/TOEFL ITP実施  
グローバル人材養成プログラム(タイ)最終説明会
- 2/16 グローバル人材養成プログラム(NZ)出発
- 2/21・22 英語で授業するための教員研修
- 2/22 グローバル人材養成プログラム(タイ)出発
- 3/10 グローバル人材養成プログラム(タイ)帰国
- 3/15 外国人留学生地域貢献プロジェクト 工場見学 (TOTO滋賀工場)
- 3/18 グローバル人材養成プログラム(NZ)帰国
- 3/20 TOEFL ITP実施



研修はすべて英語で行われ、英語での授業を始めるきっかけとして、あるいは新たな指導法を取得するための機会として、2日間で26名の先生方が受講されました。

奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER Vol.54 2019年3月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp